

広田っ子

～本物の笑顔が輝く広田小～

佐世保市立広田小学校 学校だより
第9号 令和5年1月16日(月)
文責 井上 文典

「本物の笑顔」に簡単アクセス
広田小HP QRコード



今年も「願い」は、まず子どもたちの健康と安全です

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

冬休みが終わり、学校では今年もコロナ対策をしながら教育活動を進めています。年が明けても、影響は本校にも出ています。年始に強く願ったことは「子どもたちの健康と安全」です。安心して学校生活を送れることは元より、元気いっぱいの姿や、どんな時もマスク越しではなく笑顔が出せる学校が早くもどってくることを心から願っているところです。



6年生、小学校最後の始業式の講話より(一部抜粋)

(本年度、6年生の始業式、終業式は中学校体育館で小学校校長〔井上〕がリモートではなく対面で話をしています。)

3月16日の卒業式の日まで、本気の本気でがんばってほしいことは「言葉」を大切に、丁寧に使うということと、心を開いて自分からあいさつをするということです。

1つ目は言葉についてです。

これは1学期にも話しましたが平仮名一文字、2文字を意識してほしいです。例えば「のに」と「ので」です。「私は頑張ったのに・・・」この「のに」では自分の反省点を具体的に振り返るとはできません。しかし「私の練習が足りなかったので・・・」等のように「のに」を「ので」に言い換えると、努力するポイントや工夫するポイントが明らかになり向上するきっかけになります。

それから今年はいよいよ皆さんは中学生になります。だから言葉の使い方も自立していく必要があります。自分が何を伝えたいのか、何をわかってほしいのかをしっかりと考え整理し、正しい言葉にして話したり、書いたりすることが大切になります。また、相手が傷つくような言葉は絶対に使いません。私たち大人も、相手が子どもであっても、人権を傷つけるような指示の仕方や指導はしません。教室をはじめ、学校の中の風土や雰囲気はそこで暮らす人の言葉でつくられていきます。温かい言葉がたくさんつかわれている教室は温かい空間となります。しかし、冷たく、悲しい言葉、汚い言葉、怖い言葉が使われている教室は暗い雰囲気になり、悲しいことが起こる可能性が高まります。ぜひ3学期は一人一人が自分の言葉を大切に、人の心を温める言葉づかいができる人になってほしいと思います。

2つ目はあいさつについてです。

ぜひ、さらに良いあいさつ、一流のあいさつができる人をめざしてください。一流のあいさつとは人を笑顔にするあいさつ、街を元気にするあいさつです。一流のあいさつは簡単だと思いませんか？ あいさつしやすい人へのあいさつは簡単ですが、自分から心を開いて、あいさつをするためには人に気づく力と心の強さ、そして、何より相手を思いやる優しい心が必要です。めざすあいさつのレベルは高いですが、3学期は自分から心を開いてあいさつができる人をめざしてがんばっていきましょう。一流のあいさつができる人になっていくかどうかは自分次第、あなた次第です。

令和5年は6年校舎から温かい言葉、温かい本物の笑顔を広げていきたいと思っています。

ともに頑張りましょう。

1年生から5年生の始業式(放送)の講話より(一部抜粋)

正月という文字は正しい月と書きますね。正しい月を迎えるために年末には大掃除をしたり、ものを片づけたりします。そのようにするわけは正しい月「正月」が一年の基準だからです。そして正しい月だから「正しいことを思うこと」「正しい考えをもつこと」「正しく判断すること」「正しく行動すること」等について、あらためて自分を振り返り、整えることが大切です。正月という言葉にはそのような意味もあります。

3月24日の修了式の日まで、本気の本気でがんばってほしいことは3つの「広田ベーシック」です。「広田ベーシック 一つ目は はきものそろえ 2つ目はあいさつ 3つ目は黙想」です。

1つ目のはきものそろえです。

下駄箱を見るとほとんどの人が習慣になっています。すばらしいです。まだできていないという人がいたら、3学期は私と一緒に、どうやったらはきものをそろえられるようになるか、自分の行動について研究をしてもらいます。私と一緒にがんばりますよ。小さなことができる人は、いずれ大きなこともできるようになります。逆に、小さなことができない人は、大きなことをまかせることができません。はきものそろえは小さな実践かもしれませんが、はきものそろえはいずれ皆さんの夢につながっています。

～2つ目のあいさつについては6年生と同じ内容を話しました(省略)～

3つ目は「黙想」です。

黙想が上手にできるようになっています。先生が教室にいなくてもチャイムが鳴る前に自分たちで黙想ができている学級がたくさんあります。素晴らしいです。

デジタルの世界が広がり、ドンドン ドンドン スピードが求められる時代が来ています。しかし、人間の心はそうはいきませんね。時には目を閉じて少しの時間でも自分の心を落ち着かせることがとても大切になってきています。たくさんの情報が目から入ってくる時代だからこそ目を閉じて、止まる時間がとても大切です。

広田小学校では 黙想をします。心を落ち着かせて勉強をしましょう。

3学期も「広田ベーシック」をみんなでがんばっていきましょう。



「夢は何ですか？」

子どもたちは、いろんな夢や希望について話してくれます。

昨年はサッカーのワールドカップにおける日本代表の活躍等もあり「サッカー選手になりたい」と話してくれる子がたくさんいました。また、将来就きたい職業について話してくれる子もいれば、将来、いろんな国に行きたいとか、宇宙に行ってみたい等、してみたいことを話す子もいます。どれも素敵な夢です。



子どもたちが夢について話すとき、会話が弾み、ワクワクが伝わってきます。そして、「がんばりたい」や「努力する」等の言葉がいつもより生き生きとしています。夢が子どもたちの心に火をつけていることがはっきり伝わってきます。

「夢は何？」と尋ねた後に、「なぜ？」と聞くと、いろんな答えが返ってきます。その中に「お客さんを笑顔にしたいから」「患者さんを笑顔にしたいから」「子どもを笑顔にしたいから」等、自分ではなく他者を笑顔にしたいからその仕事をしたいという理由を話してくれる子どもたちがいます。他者を思い、行動しようとするホスピタリティーの意識が幼いながらも育っていることを感じ、心が温かくなります。コロナ禍で人との交流が難しい時でも、またデジタル化されていく時代の流れの中にあっても、人を笑顔にすることを夢としていることを話せる人に出会うととても嬉しいです。

夢は子どもの心に火をつけます。そして、生きる力になります。

子どもたちと夢の話をするとき、私は、その夢が壮大な夢でも「無理」とは言いません。「どうやったら叶うかな」「まず何をしようか」と話します。

子どもたちは未来に向かっていきます。今、暗い話題がたくさんありますが子どもたちの夢を大切に、明るい話をたくさんしていきたいと思えます。

